指導と評価の年間計画（シラバス）

学校番号	1205
大阪府立岬高等学校　総合学科	

令和　　2 年度　　地理歴史　　科

教科	地理歴史　　科	科目	世界史A	単位数	2　　単位	年次	2　年次
使用教科書（出版社）	世界の歴史　改訂版（山川出版）						
副教材等（出版社等）							

1．担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の流れと国家間の繋がりを考えさせる。
・歴史的な出来事に原因を追究する思考を働かせる。
・歴史を背景として、現在の世界と日本の関係性を考えさせる。

2．学習の到達目標

・視覚的に有効な様々な資料を活用しながら、歴史的思考力を養う。
・現代の諸課題を、歴史的観点から考察することができる。
・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3．学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：資料活用の技能	d：知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ構成に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート レポート 〔主題学習〕 振り返りシート	ワークシート 定期考査 〔主題学習〕	ワークシート 定期考査 〔主題学習〕	定期考査 〔主題学習〕 内容のまとまり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4．学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法
1学期	世界の一体化と日本	世界の諸文明	・東アジア世界・南アジア世界・東南アジア世界・西アジア世界・ヨーロッパ世界	○ ○	○	○	○	a：現在でも使用されている，漢字・漢文・漢人などといった語句から，漢王朝が日本に与えた影響について，関心を持つことができる。 b：南アジアの風土・民族の多様性に気づき，歴史を通じて北インドと南インドに相互に異質な社会が形成されたことに注目し，文章にまとめることができる。 c:教科書の地図などを利用して，ムスリムによる征服戦争(ジハード)が進展するプロセスを，段階を追って跡づけられる。 d：文字や宗教の創始に見られるような，西アジア世界が人類史の歩みにあたえた影響の大きさを理解できる。	定期考査 ワークシート
		世界の一体化の始まり	・16世紀の世界と一体化の始まり・明代の東アジア・清代の東アジア ・サファヴィー朝とムガル朝・オスマン帝国・大航海とアメリカ征服	○	○ ○	○	○	a:16世紀の世界にあっては，物質的な豊かさや高度な精神文化の中心は，繁栄するアジア諸国にあったという点に注目することができる。 b:明の成立によって，周辺諸国がどのような対応をとったかを整理し，文章にまとめることができる。住民を改宗させたサファヴィー朝に対し，異教徒に寛容なムガル朝と，両王朝の宗教政策を対比的にとらえ，文章にまとめることができる。 c:清代の東アジアの地図を見て，現在の中華人民共和国の国境と比較し，その変化を把握できる。 d:中国とヨーロッパの交流の影響について，お互いの地域ごとに整理できる。	定期考査 ワークシート
		近代の世界	・大航海とアメリカ征服・新しい時代の始まりとルネサンス ・宗教改革・スペインの時代からオランダの時代へ・絶対王政と議会王政・東ヨーロッパの専制・大西洋経済	○ ○	○ ○	○	○	a:アメリカ先住民の国家・文明が，少数のヨーロッパ人の手でもろくも滅ぼされてしまったのはなぜか，その原因を考察できる。 b:ヨーロッパ人に海外進出を促した背景や，なかんずくポルトガル・スペインの両国がその先頭に立った理由を，多面的に考察し，文章にまとめることができる。 c:ヨーロッパの海外進出の先駆者たちが開拓したルートを，地図上で確認できる。 d:免罪符について調べ，それが宗教改革派にとって許し難いものであった理由を理解できる。	定期考査 ワークシート

2学期	世界の一体化と日本	近代の世界	・啓蒙とアメリカ独立 ・フランス革命・ナポレオンとその帝国・イギリス産業革命・イタリアの統一とドイツの統一 ・南アジア・東南アジアの植民地化	○	○ ○	○	○ ○	a:啓蒙思想誕生の背景を多面的にとらえ，その後のヨーロッパにあたえた影響を客観的に整理できる。 b:ナポレオン登場の背景を，フランス革命史の展開のなかで，革命独裁崩壊後の状況に関連づけて考察し，文章にまとめることができる。 c:地図を用いて，ナポレオンが，その一族を元首とする従属国や同盟国の支配者として，一時とはいえ「大陸制覇」を実現したことを確認できる。 d::パクス＝ブリタニカの世界秩序の下で覇権国家として君臨したイギリスにとって，南アジア(インド)植民地の領有が持った決定的重要性を理解できる。	定期考査 ワークシート
	地球社会と日本	・現代の始まりと帝国主義 ・二つの世界大戦	・世界分割と一体化の進展・帝国主義の国際対立・植民地・従属国での民衆の抵抗 ・第一次世界大戦・ロシア革命・ヴェルサイユ条約とワシントン体制・アジア諸地域の抵抗と独立・東アジアの民族運動・世界恐慌・ファシズムの台頭・第二次世界大戦	○	○ ○	○	○	a:第二次世界大戦発生の原因に関心を持ち，直接の原因，根本的な原因など，様々な要素を挙げて主体的に考察できる。 b:日本・ドイツ・イタリアのファシズム体制について，国内の全体主義体制の確立と対外侵略政策の強行とがからみ合っていることに注目し，文章にまとめることができる。 c:ガンディーの思想に注目し，彼が西欧による植民地支配を批判するにとどまらず，アジア(人)のアイデンティティーを顕揚したことの意味に注目することができる。 d:アメリカで始まった恐慌がなぜ世界に広まったかについて，戦時債務の国際的流れの図を参考にして，理解できる。	定期考査 ワークシート
3学期	地球社会と日本	平和と冷戦	・冷戦期の開始 ・冷戦の激化と核戦争の危機・第三世界の出現	○	○ ○	○	○ ○	a:中国の国共内戦・朝鮮戦争・インドシナ戦争など，戦後の東アジアでうち続いた戦火に関心を持ち，それらが日本にあたえた影響を自ら調べることができる。 b:冷戦体制の下でのドイツ・朝鮮・ベトナムにおける分断国家の出現について，そのメカニズムを考察・理解して，文章にまとめることができる。 c:地図をもとに，東西両陣営が世界中に張りめぐらした集団安全保障体制のネットワークを整理することができる。 d：大戦直後のアメリカ経済の圧倒的地位と，アメリカの国内通貨ドルによる国際決済という新しい仕組みを，理解できる。	定期考査 ワークシート
		現代社会と日本	【主題学習】 持続可能な社会への展望 身近なモノから地球環境・地域紛争・情報社会を考えてみよう	○	○	○	○	a身近な存在である「ケータイ・スマホ」を通じて，世界経済や環境問題に興味を持つことができる。 b:アフリカの地図を参照して，アフリカの歴史を世界経済の文脈のなかで再構成し，文章にまとめることができる。 c:グラフや表を参照し，「ケータイ・スマホ」の回収が進まない状況に関して，その背景・対策について深く考察できる。 d：手軽に情報発信ができるようになった現状を踏まえ，そうした技術の主体的利用法について，考察できる。	レポート 振り返りシート